

震災から5年を迎えて

会場 福島県立博物館



プログラム1 特集展「震災遺産を考える ― ガレキから我歴へ」 平成28年2月11日(木)～3月21日(月) 9時30分～17時(入場は16時30分まで)

同時開催「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験」(特集展開催日の10時30分～12時、13時30分～15時)

プログラム2 トークセッション「震災画像・映像アーカイブの可能性」 平成28年2月18日(木) 13時30分～15時

プログラム3 シンポジウム「震災遺構を考える ― 震災を伝えるために ―」 平成28年3月19日(土) 13時～16時

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災を歴史と位置づけること、歴史として共有し、未来に伝えることを目指しています。そのためにはまず「福島県に何が起きたのか?」「福島県に何が生じたのか?」を明らかにすることを出発点に、震災で生じた出来事の背景や要因を探っていく必要があると考えています。震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として、私たちは震災が産み出したモノやバショに着目し、これを「震災遺産」と呼んでいます。

福島県における本震災には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージと、これに対応した救助・避難・支援・除染などの様々な局面があり、この局面ごとにあるいは局面が重なって多量の瓦礫、広域に分布する仮設住宅団地、除染物質の広大な集積など非日常の光景が震災から5年の今も産み出されています。

本プロジェクトでは、震災遺産が震災の経験だけでなく震災前まであった人々の生活や日常を伝える手段になると考え、昨年度からフィールド調査や資料を収集・保全する取り組みを始めました。アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」会津セッションでは、プロジェクトのこれまでの活動を皆様にご紹介するとともに、震災のカタチを多様な震災遺産と多様な保全のあり方から考える機会として、展示会・対談・シンポジウムを開催します。

●主催 ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会

●共催 東北大学学術資源研究公開センター
東北大学災害科学国際研究所
東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

●ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会 (委員長 赤坂憲雄)

構成団体

相馬中村層群研究会 南相馬市博物館 双葉町歴史民俗資料館
富岡町歴史民俗資料館 いわき市石炭・化石館 (公財)ふくしま海洋科学館
いわき自然史研究会 福島県立博物館

●お問い合わせ先 福島県立博物館 〒965-0807 会津若松市城東町1-25 TEL0242-28-6000



震災遺産を考える

プログラム1 特集展 —ガレキから我歴へ

平成26年度から開始した震災遺産の調査・収集活動とその成果を約100件の収集資料や写真パネルで紹介し、震災の多様性と震災から5年のふくしまを振り返る。

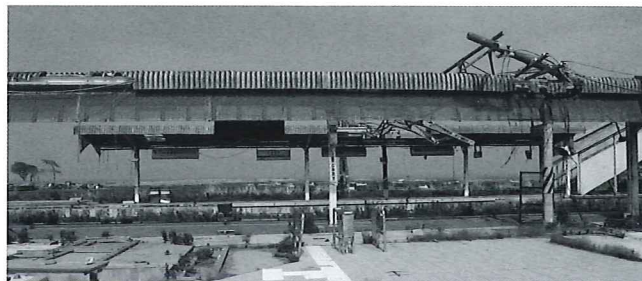
- ◎会場 福島県立博物館 企画展示室
- ◎会期 平成28年2月11日(木・祝)～3月21日(月・祝)
- ◎時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで)観覧料無料
- ◎休館日 毎週月曜日 *3月21日(月・祝)は開館
- ◎解説会

毎週日曜日 10時30分～、14時～
2月11日(木・祝) 10時30分～、14時～
3月21日(月・祝) 10時30分～

- ◎構成
- 1 あの日・あの時から —揺れる大地・迫る海・崩壊した「安全」—
2011年3月11日から今日までに発生した出来事、象徴的な震災遺産から振り返る。
- 2 「避難」の多様性
一次避難所、「一日だけの避難所」など福島県特有の避難を避難所資料から考える。
- 3 断絶する「日常」—学校・生活・仕事—
震災で断絶する日常・回復しない日常を被災地に残されたままとした器物から紹介する。
- 4 思いがけない「未来」
震災によって意味が変わったもの、新たに生み出されたものから福島県の今の姿を考える。

◎主な展示品(期間内に展示替あり)

- ・震災の時刻で止まった時計
- ・津波で曲がった橋の欄干
- ・火事で融けた街灯
- ・配達されなかった新聞包み
- ・避難所で使われたロウソク
- ・JR富岡駅改札
- ・震災当日の新聞が入ったままの自動販売機
- ・活断層剥ぎ取り標本
- ・避難誘導したパトカーの部品
- ・被災地名を示す道路標識
- ・非常用飲料水
- ・垂れ幕「富岡は負けん！」



特集展同時開催

写真 JR富岡駅

3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験

福島県内初公開

3Dポイントクラウドデータとして保存した福島県所在の「震災遺構」を、最新技術MRによる3次元バーチャル映像で体験します。

*MR—複合現実:仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術。

- ◎会場 福島県立博物館 企画展示室内 特設ブース
- ◎日時 特集展開催日の10時30分～12時
13時30分～15時

- ・体験可能人数は午前・午後各20名。午前の部は10時から、午後の部は13時から整理券を配布します。
- ・お一人当たりの体験時間約5分。
- ・機器調整のため体験できない場合もあります。

◎コンテンツ

- ・浪江町請戸地区(請戸小学校・請戸漁協ほか)
- ・浪江町内避難所跡
- ・JR富岡駅
- ・富岡町災害対策本部跡などを予定

■協力 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

ふくしま震災遺産保全プロジェクト アウトリーチ事業
震災遺産を考えるII 会津セッション

震災から5年を迎えて

震災画像・映像アーカイブの可能性

プログラム2
トークセッション

現場から引き剥がされた画像や映像を「場面(シーン)」として捉えることへの違和感。時間の流れとともに被災現場が消失し、風土が記憶・過去を失うとき、画像・映像が、その土地の声なき声・目に映らないもの・現実の不安に対する距離感をどう伝えていくのか。画像・映像に何を語るべきなのか。

- ◎会場 福島県立博物館 講堂(定員200名)
- ◎日時 2月18日(木)13時30分～15時
入場無料 *申し込み不要・先着順
- ◎出演 赤坂憲雄(福島県立博物館館長)
金澤文利(福島県立博物館主任学芸員)

プログラム3 シンポジウム

震災遺構を考える

—震災を伝えるために—

福島県における、震災遺構の現地保存の議論は、原子力発電所の事故の影響もあり宮城県や岩手県のように進んでいない。

ふくしま震災遺産保全プロジェクトと東北大学は平成26年度から県内の震災遺構の3Dポイントクラウドデータによる保存事業に協力して取り組んでいる。本シンポジウムでは被災3県の震災遺構の保存についての現状を知り、震災遺構や震災遺産の価値を考え、今後どのように活用して震災を伝えていくことができるのか検討する。

- ◎会場 福島県立博物館 講堂(定員200名) 入場無料 *申し込み不要・先着順
- ◎日時 3月19日(土)13時～16時

- ◎次第 1 開会あいさつ 福島県立博物館 館長 赤坂 憲雄
- 2 講演(各20分程度)
- ・報告1「福島県の震災遺構」 福島県立博物館 主任学芸員 高橋 満
- ・報告2「震災遺構3DデータとMR技術の可能性」 東北大学学術資源研究公開センター 技術支援員 鹿納 晴尚 氏
- ・報告3「岩手・宮城の震災遺構」 東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山 明寛 氏
- ・報告4「東日本大震災における復興祈念公園について」 国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所 所長 脇坂 隆一 氏
- 3 パネルディスカッション(司会) 赤坂 憲雄 (パネリスト) 上記発表者4名
富岡町教育委員会 主任学芸員 三瓶 秀文 氏
- 4 閉会あいさつ 赤坂 憲雄